

## D I 調査結果（平成23年10-12月期）

概況総括：『超円高、世界経済減速懸念等の影響が徐々に始まっており、  
先が読めない状況 大震災からの復旧・復興に期待』

### 【調査概要】

1. 今期（H23年10-12月期）の業況調査のD I 12項目では、プラスD Iは「売上高」「資金繰り」「操業率」「生産設備」の4項目（前回も4項目）、マイナスD Iは8項目（前回も8項目）となった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
  - （1）景況感を端的に表す「売上高」5.6（前回9.0）は、前期に引き続きプラスであるが、逡減傾向にある。前回やや改善傾向にあった「収益状況」▲11.2（前回▲6.5）は悪化し、同様の傾向にあった「資金繰り」0.4（前回▲1.8）、「取引条件」▲4.1（前回▲4.6）は横ばいである。「原材料単価」▲14.8（前回▲38.3）は世界全体の減速懸念や超円高等の影響により下降傾向にあるが、横ばいが6割を超え実感が無いのが現状のようだ。
  - （2）現場の繁忙さを現す指標として、「操業率」11.9（前回11.1）、「生産設備」4.7（前回4.1）は、前回同様プラスであり、足元の忙しさはそれなりに続いている。また、「受注残」▲10.9（前回▲13.7）もマイナスであるが、7割近くがここ1～2ヶ月の仕事量は確保しているようだ。
3. 来期については、前期より下降傾向にあった「来期受注」▲16.1（前回8.3）は大きく下振れしマイナスに転じた。また「来期採算」▲24.7（前回▲14.0）、「来期資金繰り」▲14.2（前回▲10.4）も同様に悪化している。理由としては、欧州発の世界経済の減速や信用収縮懸念、超円高による国内輸出産業の業況悪化、タイ洪水被害の影響などにより、発注側もリスク対策面等からより一層慎重になっている。
4. 「企業経営上の悩み」については、「受注不安定」が46.2（前回43.4）と依然トップであり、「人材不足」13.7（前回15.0）、「採算」9.2（前回11.3）、「競争激化」9.2（前回8.8）と前回同様の順番である。「その他」3.4の内容としては、円高を挙げる企業がほとんどである。
5. 足元の景況は震災後比較的平穏に推移してきたが、景気の牽引役であった中国の金融引き締めによる成長の鈍化、世界経済の減速・信用不安等の懸念、超円高による輸出産業の業況悪化等が徐々に出来ており、これから先の景気動向が非常に読みづらいようだ。
 

一日も早く大震災からの復旧・復興に本格的に取り組み、日本経済を再び成長軌道に乗せていただくことを期待している。

